

学校法人 東京聖徳学園

聖徳フラッシュ

聖徳フラッシュ
第86号
平成28年10月1日
発行
学校法人 東京聖徳学園
〒108-0073 東京都港区三田3-4-28
TEL.03-5476-8811(代)

聖徳学園ホームページ
<http://www.seitoku.jp/>

- 聖徳大学大学院
- 聖徳大学教職大学院
- 聖徳大学短期大学部
- 聖徳大学幼児教育専門学校
- 聖徳大学附属女子高等学校
- 聖徳大学附属女子中学校
- 聖徳大学附属女子中学校
- 聖徳大学附属小学校
- 聖徳大学附属幼稚園
- 聖徳大学附属第二幼稚園
- 聖徳大学附属成田幼稚園
- 聖徳大学附属浦安幼稚園
- 聖徳学園三田幼稚園
- 聖徳学園八王子中央幼稚園
- 聖徳学園多摩中央幼稚園



八月二日(火)、短期大学部保育科の学生有志と教員による「まつどソング研究グループ」が創作した松戸のふるさとソング「まつどでかくれんぼ」のCDリリース記念発表会を行いました。

このまつどソングの制作は、「子どものふるさと愛を育む教材開発」というテーマ



松戸ふるさとソング「まつどでかくれんぼ」CDリリース!

マのもと、短期大学部として取り組んでいる文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」にもとづく研究成果の一つです。昨年の夏、市内の歴史的文化遺産やさまざまな産業、名産品、遊び場などを巡り、学生の目線から得たイメージワードを中心に作詞し、教員が作曲さらに子どもたちに親しみやすい振りをつけて完成させました。「まつど」以外具体的な地名や名称をあえて入れず、歌詞に散りばめられた松戸の名所を親子で探してほしいという意味を「かくれんぼ」というタイト

ルに込めています。CDジャケットのイラストは、七月に松戸中央公園で開催された「アートパーク9」において、子どもたちに描いてもらった作品の中から採用したもので、本発表会には採用された子どもたちも招待し、川並弘純学長より感謝状と記念品の贈呈が行われました。また、学生たちが「まつどでかくれんぼ」の歌と踊りを披露した際には一緒に踊ってくれました。

発表会には、CD制作においてさまざまな形で協力いただいた、松戸市役所の文化観光国際課長をはじめ関係団体や地域の方々をお招きするとともに、報道各社にリリースして記者発表の形を取りました。この発表は後日記事として報道され、多くの市民の目に触れたことで、学生の自信につながり、今後の活動の励みになったのではないかと思います。この取り組みにより、地域を支える保育者に必要な力量の向上につながることも、「まつどでかくれんぼ」が地域の子どものふるさと愛の醸成につながることを期待されます。

INDEX	
学園	1
大学院・大学短大	2,3,4,7
幼児教育専門学校	1,2,3,4
附属女子中・高	5,4
取手聖徳女子中・高	5,4
幼稚園	5,6,5,4
小学校	7,6,7
インフォメーション	8

より豊かな未来に向け ISO 認証を更新

ISO 9001
(教育の質マネジメントシステム)

ISO 14001
(環境マネジメントシステム)

聖徳学園は、平成15年11月に日本の教育機関では初めて品質管理システムのISO9001および環境管理システムのISO14001、両国際規格の認証を同時取得しました。

※本発表会の模様をYouTubeにアップしていますのでぜひご覧ください。大学ホームページのニュース欄からもリンクしています。

https://youtu.be/_ax1z3otPRc

聖徳大学・聖徳大学短期大学部 第52回 聖徳祭

11月12日(土)・13日(日) 開催

今年度のテーマ 「踏み出せ一歩 輝け未来」

今年度も聖徳大学・聖徳大学短期大学部の聖徳祭を開催します。「踏み出せ一歩 輝け未来」には、「跳躍するため、超えるため、革新するために一人一人が一歩を踏み出す。その十人十色の一歩が、これからの未来をつくる。さあ、新しい自分に会おう」という願いが込められています。当日は、華やかな野外ステージ発表、クイズラリーなど、学科ごとの工夫や、学生の日頃の学びを生かした聖徳祭ならではの企画が盛りだくさんです。ご家族揃って、ぜひお越しください!

地元企業とのコラボ商品も登場!

短期大学部総合文化学科では、千葉興業銀行とのコラボ企画「千産千商」において、企業とのコラボ商品の製造・販売を行います。

ハッピーホームカミング 11月12日(土) 14:00 - 15:30 (予定)

聖徳祭ポスターが決定!

学生から聖徳祭ポスター作品を募集した結果、92点の作品が寄せられました。学友会役員の学生と聖徳祭委員の教員で厳正に審査した結果、児童学科 児童文化コース4年の渡辺あてなさんの作品に決定しました。踏み出した一歩が、キラキラした未来の可能性を無限に広げているようなイメージで描かれた女性の姿が、今年度のテーマにふさわしい作品です。



学園祭 開催案内

■ 幼児教育専門学校	■ 附属小学校	■ 三田幼稚園
文化祭 11/3(木・祝) 10:00~14:30	第31回 聖徳祭 10/16(日) 8:10~15:00	11/3(木・祝) 10:00~14:30
■ 附属幼稚園・附属第二幼稚園・附属成田幼稚園・附属浦安幼稚園	■ 八王子中央幼稚園	■ 多摩中央幼稚園
大学・短大部 第52回 聖徳祭	11/12(土) 10:00~12:30	10/23(日) 10:00~14:00
ステージ発表 (川並香順記念講堂)		10/30(日) 10:00~14:00

聖徳大学・聖徳大学短期大学部は、八月十五日(月)付けで、千葉県立我孫子高等学校(中山公央校長)と高大連携に関する協定書を締結しました。

同校は、千葉県教委「県立学校改革推進プラン」第三次プログラム」として、普通



握手を交わす川並純樹学長(左)と中山公央校長

我孫子高校との 高大連携協定を締結

科「教員基礎コース」の平成三十年度設置に向けて準備を進めています。今回の協定は、同コースの「教員養成系大学や教育機関等との幅広い連携による出前授業や特別講座、大学の講義体験、学生との交流会などを実施し、専門的な学びを通

して教員になるための基礎を学ぶ」という趣旨に沿って実現したものです。具体的な連携の内容としては、本学の指定する授業科目の科目等履修生や各種講座の受講生としての受け入れ、本学教員による出張講義、教育に関する情報交換・交流などを行います。



奥村高明教授による講義

また、今回の高大連携協定にもとづく活動の第一弾として、八月二十四日(水)二十六日(金)にかけて、同校が開催した「教員基礎コース」のプレ合宿において、児童学部部長の奥村高明教授を派遣し、「児童教育・図画工作」の講義を行いました。奥村教授はスクリーンを駆使して優しい語り口で講義を進め、幼児や小学生の感覚や見え方などについて詳しく説明しました。最後に、「子どものことを理解したつもりでも、分かるのは一割程度。しかし、教育の世界においては先生はかけがえのないものなので、素敵な先生になってほしい」と、未来の先生たちにエールを送りました。

人間栄養学科・総合文化学科 「パティスリー&ブーランジェリー ジャパン二〇一六」に出展

八月一日(月)から三日(水)までの三日間、東京ビッグサイトにおいて「パティスリー&ブーランジェリージャパン二〇一六」が開催され、人間栄養学科、総合文化学科が出展しました。

「パティスリー&ブーランジェリージャパン」は、パン、洋菓子の素材、酵母、包装資材、製造装置などのレシピ・技術・製品等を一堂に集めた専門展示会で、本学は日頃の研究や地元企業等と連携して行っている取り組みの成果を発表しました。



展示を行い、学生が来場者に研究内容を説明しました。また、本学の調理実習室で調理した金時豆のブラウニー、ひよこ豆と大豆のシフォンケーキ等を試食用として提供しました。グルテンフリーの洋菓子の評判は大変高く、多くの来場者の注目を集めました。

総合文化学科の佐藤利枝子教授は、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(大学COC+事業)「信頼と共感でつながるふるさと

八月二十九日(水)、聖徳大学看護学部では、増井三夫副学長を講師として「ルーブリックの開発とその評価例」をテーマに、第一回看護学部FD研修会を開催しました。「ルーブリック」とは学習到達度を示す評価基準表のことです。昨今の教育現場で注目、活用されています。

最初に、ルーブリック評価を用いる意義と評価項目について説明を受けた後、看護学部一回生がハワイ大学で行った研修の動画「写

看護学部FD研修会を開催 「ルーブリックの開発とその評価例 —ハワイ研修を事例として—」

ク力「問題・課題解決力」の四項目について大きな効果が認められたとの報告がなされました。

その後の質疑応答では、他学部の教員や職員も交え、活発な意見交換がなされました。教職員が日頃実践している教育の「学び」をどのように評価するのか、あるいはアクティブラーニングの具体例など、議論のテーマは多岐に及び、いずれも今後の聖徳大学におけるより良い教育の実現に向けた熱意が感じられるものでした。



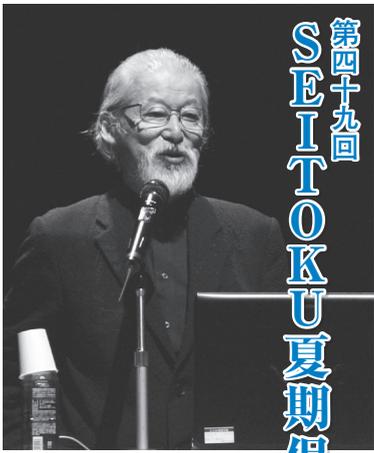
真の説明がありました。続いて、ハワイ大学でのシミュレーション教育を経験した学生について、「自己管理能力」「自己肯定感」チームワ

参加した学生からは「将来、社会にできるイメージをつかむことができた」と、研究内容や成果を来場者に説明するだけに留まらず、他の出展ブースを見学・訪問に行くなど、積極的に活動した様子が見られました。

七月二十二日(金)、第七回全学FD・SD研修会が行われました。この研修会は授業改善にとどまらず、広く教職員の資質能力を伸ばすことを目的に実施しているものです。

第七回全学FD・SD研修会

はじめに奥村高明自己点検・評価委員会委員長から本研修の企画趣旨説明があり、続いて児童学部の石川満佐育准教授から「Freshmen Camp」の取り組み、「心理福祉学部心理学科の菅沼憲治



第四十九回 SEITOKU夏期保育大学 を開催

午前中は、川並香順記念講堂において、環境建築家として子ども向け建築を数多く手がけた仙田満先生に、「発達と保育と環境」と題し、ご講演いただきました。講演では、子どもの発達とその成育環境の関係性、中でも中枢神経の発達と園庭等の子どもの「遊び」環境における斜面、小山、ネットの重要性や、豊かな生活環境

午後からは十四の分科会に分かれ、各分野の視点から講義や体験を通じ、交流を深めながら充実したひとときをお過ごしいただきました。四十九年にわたって続く夏期保育大学は、「保育の聖徳」の総力を結集する場となっており、来年度は第五十回の節目を迎えます。今後とも、参加者にとって実り多い企画の充実に力を注いでいきます。

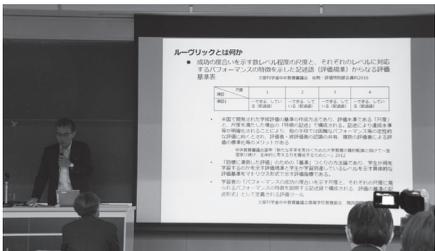
七月二十三日(土)、夏の夏期保育大学を開催しました。今年、「発達と保育と環境」を総合テーマに掲げ、保育士や幼稚園教諭を中心に総勢四百九十五名の方に申込みをいただきました。

仙田満先生 川並香順記念講堂において、環境建築家として子ども向け建築を数多く手がけた仙田満先生に、「発達と保育と環境」と題し、ご講演いただきました。講演では、子どもの発達とその成育環境の関係性、中でも中枢神経の発達と園庭等の子どもの「遊び」環境における斜面、小山、ネットの重要性や、豊かな生活環境

午後からは十四の分科会に分かれ、各分野の視点から講義や体験を通じ、交流を深めながら充実したひとときをお過ごしいただきました。四十九年にわたって続く夏期保育大学は、「保育の聖徳」の総力を結集する場となっており、来年度は第五十回の節目を迎えます。今後とも、参加者にとって実り多い企画の充実に力を注いでいきます。

七月二十二日(金)、第七回全学FD・SD研修会が行われました。この研修会は授業改善にとどまらず、広く教職員の資質能力を伸ばすことを目的に実施しているものです。

はじめに奥村高明自己点検・評価委員会委員長から本研修の企画趣旨説明があり、続いて児童学部の石川満佐育准教授から「Freshmen Camp」の取り組み、「心理福祉学部心理学科の菅沼憲治



奥村高明自己点検・評価委員会委員長によるプレゼンテーション

全学FD・SD研修会終了後のアンケートからは「ルーブリックの意義を改めて考えることができた」「自分の授業に取り入れる準備をした」「FC以外の研修等にも導入することができるとは思えないか」等の意見が多数見られ、出席した教職員にとって意義ある研修となりました。

第四十回 ピティナ・ピアノコンペティション 全国決勝大会表彰式

一般社団法人全日本ピアノ指導者協会(ピティナ)主催によるピアノコンペティションが開催され、全国各地で約四万人超の参加者による地区大会にて選ばれた若きピアニストたちが、八月十八日(木)から四日間、東京での全国決勝大会で熱演を繰り広げました。

本学では、音楽学部における専門教育、児童学部および短期大学部保育科における児童・幼児教育者養成の一環として、学生のピアノ教育にとりわけ力を入れており、同コンペティションに協賛しています。ピアニストを目指す全国の若者たちの励みになるようにと考え、その中で特に優秀な演奏者に「聖徳大学川並弘昭賞」を授与しています。

八月二十二日(月)にグランドプリンスホテル新高輪にて開催された全国決勝大会表彰式において、音楽学部演奏学科の森島英子教授より、次の四名に同賞が授与されました。森島教授は、受賞者にお祝いと今後の活躍を期待する励ましの言葉をかけていました。

■ソロ部門F級
(高等学校三年生以下の部)
三田有輝也さん(北海道)
恒本 優花さん(東京都)
橋本 峻平さん(兵庫県)

■グランミュージズ部門A1
(二十三歳以上)
栗本 康夫さん(兵庫県)



左より三田有輝也さん、森島英子教授、橋本峻平さん、恒本優花さん、栗本康夫さん

女子プロゴルファー 木村彩子さんとスポンサー契約



女子プロゴルファーとして活躍する木村彩子さん(聖徳大学附属女子高等学校平成二十六年三月卒業)と本学が、八月にスポンサー契約を開始しました。

NEC軽井沢72ゴルフトーナメントより、ゴルフウェアの右袖に聖徳大学のワッペンを付けてプレーしています。大学がスポンサーとなる例は珍しく、女子プロゴルフ界で注目を集めています。



野田聖子先生・恩田聖敬氏が アセンブリアワーで講演 ―「自立」「自分らしさ」とは

七月二十七日(水)、春学期のアセンブリアワー(聖徳教育工)において、昨年に引き続き野田聖子名誉学長に登壇いただきました。さらに今回は、野田先生の仲立ちにより、株式会社まんなか(前F C岐阜社長)の恩田聖敬氏を招聘、学生五百人以上が聴講しました。



野田聖子名誉学長

初めに、「これからの女性の生き方『ウーマノミクス』」と題して、野田先生よりご講演いただきました。先生は各種統計データを用いて、わが国の人口が今後百年間で急減する可能性を指し示し、女性が働くこと、社会で活躍することが国の活性化につながることを指摘しました。そして、これから社会に巣立つにあたって、自分にしかない武器を持つこと、好奇心を持つことが必要であると話し、「この国を救えるのはあなたたち女性です」との訴えに、多くの学生が勇気付けられていました。

続いて、恩田氏が「自立自分らしさ」の演題で講演されました。恩田氏は、サッカークラブ「F C岐阜」前社長で、就任直後にALS(筋



キッズニア東京 インターンシップ修了式

子どもを対象とした体験型商業施設「キッズニア東京」(江東区豊洲)にて半年間のインターンシップを終えた佐藤優衣さんと中村和可奈さん(聖徳大学文学部文学科キャリアコミュニケーションコース3年)が九月一日(木)、同施設内で行われた修了式に臨みました。



修了証書授与の様子

関係者が見守る中、キッズニア事業本部長の能勢幸次氏より慰労の挨拶があった後、キッズニア東京事業部長・営業部長の島崎俊一氏から修了証書が各自に手渡されました。修了式には川並弘純学長も出席し、今後の活躍を期待する言葉が贈られました。



修了証書と花束を手に笑顔を見せる中村さん(左)と佐藤さん

佐藤さんは銀行、中村さんは病院のパビリオンにそれぞれ勤務。たくさん貴重な経験ができたことや、子どもたちと共に成長できたことなどを述べ、「子どもへの接し方が分からず苦労したこともあったが、

パビリオンマネージャーをはじめ多くの方に支えていただいた」と振り返りました。

聖徳フーニングデザインセンターだより レポート・小論文の書き方セミナー開催

文章力・表現力を鍛える

学生の皆さんの中には、レポート・小論文作成が苦手という方も多いようです。しかし、文章を書く機会は、大学・短大在学中に限ったことではありません。卒業後も、報告書、議事録、企画・提案書、日誌、連絡帳など、「書く力」が問われる場面は多々あります。レポート作成を通して書く力をトレーニングしておくことは、社会人になってからも大変有効です。ぜひ、書く力を鍛えておいてほしいものです。

聖徳フーニングデザインセンターでは春学期において、レポート・小論文の書き方についてのセミナーを二回開催しました。今回は実践演習として、制限時間を設け、与えられたテーマについて書いてもらい、相互



文章作成指導の様子

夏休み期間中は、公務員試験が迫った学生が論文の指導にセンターを活用する場面が多く見られました。そのほか、ビブリオバトル(知的書評合戦)参加の準備としてシナリオ作成、プレゼンテーションのトレーニングなどの演習に活用するケースもあり、各地の図書館主催の大会にて、その成果を披露している学生も見受けられます。

自分の思いを順序よく簡潔に整理して伝えることができれば、聴き手にも大変高い好感度を持って受け止めてもらうことができます。一年生以外にも、書く力をトレーニングしたい学生の皆さんには、ぜひセンターを活用し、文章力・表現力を高め、自分の意思を簡潔に伝達できるようになってもらいたいと思います。

本学兼任講師 田村由美先生が読売新聞社賞を受賞 学生も全員入選の大健闘

読売新聞社が主催する「第三十三回読売書法展」が八月十九日(金)から二十一日(日)にかけて東京展が開催され、聖徳大学からは役員(幹事)の部で本学兼任講師の田村由美先生が読売新聞社賞を受賞、文学部文学科書道文化コースの学生は、公募の部で出品者全員が入選を果たしました。



田村由美先生(左)

最後に、「皆さんのこれらの人生において、自分の思いを伝えなければならぬ瞬間が必ずある。どうしたら周りに伝わるか考えてほしい。自分の思いを伝えて、自分らしい人生を送ることは楽しいです」と学生たちへメッセージが送られました。

入選・入賞者(敬称略)

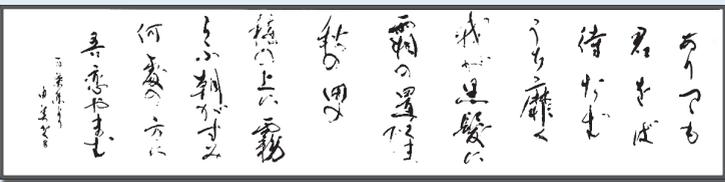
読売新聞社賞

兼任講師 田村由美先生(調和体)

入選

- ・四年 石山 樹 (漢字)
- ・三年 河野 寛子 (漢字)
- 高橋 美有 (漢字)
- 増川 雪子 (かな)
- ・二年 林 久予 (漢字)

第33回 読売書法展



田村由美先生

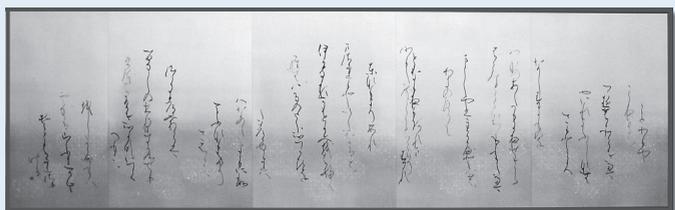


石山 樹

河野 寛子

高橋 美有

林 久予



増川雪子

目指せ! 2016ちばアクアラインマラソン アベック優勝



菅生晶子選手(左)
時田迪奈選手(右)

陸上競技部の菅生晶子選手(人間栄養学部4年)は、前回ちばアクアラインマラソンのディフェンディングチャンピオンということで、今年10月23日(日)に開催される同大会女子フルマラソンの部において、招待選手に決定いたしました。

また、時田迪奈選手(看護学部2年)は、今年1月に開催された松戸七草マラソンにおいて入賞を果たし、松戸市の推薦選手として同大会の女子ハーフマラソンに出場します。

菅生選手は大会二連覇を、時田選手は初優勝を目指します。皆様のご声援のほど、よろしくお願い申し上げます。

関東大学女子駅伝 壮行会を開催

9月23日(金)、第22回関東大学女子駅伝対校選手権大会に向け、陸上競技部の壮行会が行われました。

川並弘純学長からは「皆さんは、走ることを楽しめるレベルのチームになっていると思います。ぜひ楽しんで、爽やかな走りを見せてください」と励ましの言葉をいただき、また公認私設応援団長の吉田真言参与からは力強いエールが贈られました。増井三夫副学長、野原八千代学生部長からも、それぞれ熱い激励の言葉をいただきました。



陸上競技部からは、代表として主将・菅生晶子選手より決意表明が行われたのち、学長よりたすきの手渡しが行われました。



陸上競技部は熱意みなぎる体制で、大会へと臨みます。結果は、次回聖徳フラッシュ87号にてお届けいたします。

第四十九回 香和会総会・懇親会を開催

七月十七日(日)、聖徳大学香和会(同窓会)の第四十九回総会・懇親会が開催され、川並知子名誉学園長、川並弘純学園長をはじめ、教職員と会員の方々、総勢百三十八名に参加いただきました。

総会前には、同日開催のオープンキャンパスでにぎわっている母校のキャンパス見学ツアーに、十七名の卒業生が参加。学長自ら、看護学部の先生方と一緒に看護学部のシミュレーションロボットや施設の説明を行う一幕もありました。

総会では、大木支部長、小金森支部長を議長として、平成二十七年事業報告と決算、平成二十八年度事業

学外研修 I (信州夏季研修旅行)



幼児教育専門学校

幼児教育専門学校では、1年生を対象に、7月31日(日)から8月2日(火)まで、2泊3日の日程で学外研修I(信州夏季研修旅行)を行いました。例年、雨や雷など天候が悪く実施できないプログラムもありましたが、今年はすべてのプログラムを実施することができました。

学生たちは、信州の豊かな自然を体験する「森林セラピー(平尾山公園)」、歴史および文化に触れた「小諸城址 懐古園」など、さまざまなプログラムを経て、仲間と楽しく過ごし、充実した研修になったようです。この学外研修で得たことを、今後の学生生活に活かしてほしいと思います。

学外研修 II (北海道研修旅行)

続いて2年生を対象に、8月22日(月)から8月26日(金)まで、4泊5日の日程で学外研修II(北海道研修旅行)を行いました。

今年は初日に台風の影響で出発が遅れ、予定していた行程を一部変更するなど、今までにない波乱続きの研修旅行となりましたが、学生たちは北の大地の自然に触れ、歴史を振り返り、大地の恵みを堪能しました。途中で具合が悪くなる学生もなく、無事に研修を終えることができました。



この研修旅行の詳細は、専門学校のホームページおよびFacebookに写真とともに報告されています。ぜひ一度ご覧ください。

専門学校ホームページ <http://www.seitoku.jp/kttcsu/>
(トップページにFacebookへのリンクも掲載しています)

計画案・予算案が承認されました。また、昨年十一月の聖徳大学創立二十五周年・短期大学部創立五十周年記念式典映像の上映も行われました。

総会終了後に行われた懇親会では、川並孝純学園事務局長の音頭で乾杯し、おいしいお弁当や校章入りの紅白まんじゅう、アップルパイを味わいながら歓談しました。出された料理やデザートは、どれも聖徳ゆかりのお店のものです。



パチパチ広場で集合写真を撮影

子どもたちの確かな成長を感じて
第五十八回 千葉県吹奏楽コンクール
小学校では、今年も千葉県吹奏楽コンクールの季節を迎えました。ここ数年、夏季休業中の練習のめあてを子どもたちで話し合っており、今年も決めています。今年のためには「時間を守り、協力する」でした。一見当たり前のことのように思えますが、全員がきちんとやり遂げるにはなかなか難しいめあてです。現に昨年はこれが課題となり、思うように練習が進められなかった場面がありました。子どもたちもそのことをよく覚えていたため、今年の課題を設定してくれました。

附属小学校

今年の夏季休業中の練習は六日間という短期間でしたが、合宿も行うなど充実した内容で練習を進めることができました。時間も守る「ことも、お互いに声をかけあうこと」で「協力して」守ろうとする様子が多く見られました。



©フォトライフ

よって子どもたちがどのように成長したかの方が重要です。今回の練習、本番によって確かな成長を見せてくれた子どもたちに「金賞」をあげたいと思います。

附属女子中学校・高等学校

イギリス語学研修を終えて

七月七日(木)から二十二日(金)までの十六日間、イギリス・オックスフォードでの語学研修が行われました。今年も附属女子中高二十名、取手聖徳女子中高二十二名の生徒が参加しました。出発から飛行機が四時間遅れるなどハプニングにも見舞われましたが、無事に全員が日本に帰ってきた今、どれも楽しかった思い出として思い返されます。

授業は、到着翌日のプレイメントテストにより三つのクラスに分かれて受講しました。ときには合同の授業もあり、グループで協力してクイズに挑戦したり、情報をまとめてポスターの作成や発表などに取り組み

ました。初めは先生の話す英語に戸惑っていた生徒たちでしたが、徐々に慣れていき、授業終わりには「あつという間だった」「楽しかった」と口々に話している様子が印象的でした。

また、オックスフォード観光はもちろん、エディンバラへの小旅行やシェイクスピアの生まれた町として有名なストラットフォードやロンドンへの一日観光にも出かけ、歴史を感じさせる建造物や自然に親しみ、買い物などでは現地の人々と触れ合うことで自分たちの英語力を磨きました。

普段とは異なる環境で生活・学習していくことで、最初の不安げな様子はすっかりなくなり、帰国のときにはどの生徒も自信に満ちた表情で、一回り成長した姿を見せてくれました。この経験を今後の英語学習や進路実現へと生かしてほしいと願っています。

台北市立南門国民中学校と交流演奏会



七月十二日(火)に、台北市立南門国民中学校弦楽合奏団と本校管弦楽部の交流演奏会を本校音楽堂で行いました。同合奏団は、二〇一四年と二〇一五年に全国の音楽コンテストで優勝するなどレベルの高い合奏団です。当日は、曾文龍校長先生をはじめ、主任の漫先生、指揮者の王先生、二十五名の生徒が来校しました。

管弦楽部は、モーツァルトの交響曲四十番の一楽章と、パイプオルガン専攻



生の中村里穂さんによる「カバレリア・ルスティカーナ」、音楽専攻生の榎原沙絵さんの「夏の思い出」などを披露しました。南門中学校の演奏の後には、同校の生徒たちを対象に、安藤純先生による指導がありました。指導を受ける中で、生徒たちの音色がだんだん変化していくのがわかり、指揮者の先生の驚いた表情が印象に残っています。

時間の関係で、生徒同士の交流の時間が短かったものの、お互いにメッセージカードを交換したり、写真撮ったり、非常になごやかな雰囲気での交流会を終えることができました。

取手聖徳女子中学校・高等学校

「子ども会リーダーズ・サマーキャンプ」職員補助ボランティアを通して



取手市教育委員会後援による夏のキャンプが、七月二十三日(土)～二十四日(日)の一泊二日にわたって行われ、今年度も天候にも恵まれ、大盛況のうちに終了しました。

この催しには取手市周辺の公立・私立の高校から百名を超えるボランティアの生徒が集まり、地域の恒例行事を楽しむ子どもたちを相手に、工夫をこらしたプログラムを計画しました。

初日は開会式と子ども班の結団に始まり、班旗作りやテント立て、飯盒炊飯とカレー作り、カブト虫捕り、花火大会、ナイトウォーク、キャンプファイヤーを行いました。二日目は朝の集会和朝食、ヘルシーボール大会

保育所見学実習

七月二十一日(木)～二十二日(金)の二日間、取手市の協力のもと、本校児童保育進学コース三年生が、取手市立白山保育所において見学実習を行いました。

この見学実習は、前身の児童保育系クラスの頃から実施されているもので、保育の実際の現場を知る貴重な機会となっています。

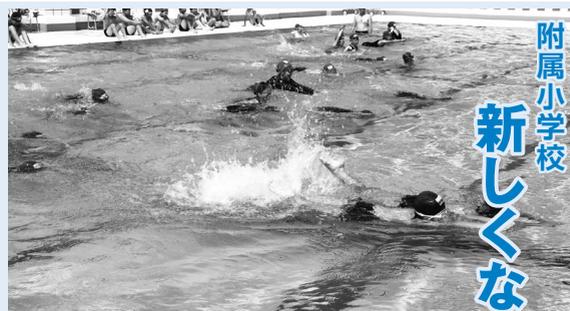
実習日は両日とも、朝から雨模様となりました。残念ながら水遊び等の夏ならではの保育を見学することはできませんでしたが、雨の日の室内での保育を十分に学習することができました。保育の現場を直接体



験することで、普段の学びを再確認し、また、保育の現状についての理解が深まったのではないかと思います。初日には、「お話の会」が行われ、プロによる絵本の読み聞かせを聞くことができました。生徒たちはたいへん勉強になったことと思います。児童保育進学コースは、高校卒業後、聖徳大

附属小学校

新しくなったプールで



ジリジリと照りつける太陽、青空に浮かぶ綿菓子のような入道雲。こんな日にはプールが一番です。小学校では今年創立三十周年を迎えるにあたり、プールの改修を行い、綺麗な状態で使用することができました。このプール改修は、創立記念事業として後援会の皆様から寄贈されたものです。日々のプールの学習では

会を行い、閉会式で有意義な二日間に幕を閉じました。ボランティア部員や福祉委員、有志参加者など、本校からは中学・高校合わせて三十三名の生徒が参加し、昨年同様、最も多くのボランティアが参加した学校となりました。

「奉仕の心」を涵養するボランティア活動を、今後も大きく盛り上げてまいります。

幼稚園短信

大盛況！ 聖徳にこにこまつり

三田幼稚園では、毎年十一月三日に「聖徳にこにこまつり」を行います。在園児はもちろん、卒園生もこの日を楽しみにしており、朝から門の前には行列ができるほどです。

当日までは、幹事のお母様「お父様方の有志会」エブロンパバの皆様を中心に準備が進められ、毎日少しずつ変化していくお部屋を見て「ここは何屋さんになるのかな」「前、ここで引きをしたの」と子どもたちはドキドキしています。

当日は保護者の方が各コーナーの売り手になり、「いらっしゃいませ」の元気な声が響き渡り、子どもたちが専門学校の校舎に入って人形劇を見たり、ゲームをしてお土産にペンダントをいただいたりと、イベントを満喫します。子どもたちが満面の笑顔で「これ、もらったんだ」「楽しかったよ」と教師に教えてくれる場面もあります。一方、久々に訪れた卒園生たちは「先生、お久しぶりです」「〇ちゃん？ すっかりお姉さんになったわね」と幼稚園時代にタイムスリップしたかのように話を弾ませます。また、模擬店コーナーでは給食の先生お手製



ゲームを楽しむ子どもたち

コース別の指導を行い、きめ細やかな指導を心掛けていました。子どもたちの中には水に顔をつけることが怖く、プールサイドにしがみつくと子どももいました。その子どもが「先生見て！顔つけられるようになったよ！」と言って、顔を付けるところを見せてくれる場面もあり、子どもの成長をひしひしと感じました。

夏休み中は天候に恵まれず、一度しか入ることができませんでしたが、最後のプール納めには自由参加にもかかわらず、たくさんの子どもたちが参加し、「流れるプール」などをして楽しく過ごすことができました。

今後のプール学習も、子どもの安全面に気を付けながら楽しく学べるよう、努めてまいります。

今後、「にこにこまつり」の名前に負けない、「にこにこ笑顔いっぱい」の行事になるようにしていきたいと思ひます。

親子で楽しむ運動会

八王子中央幼稚園では、毎年十月月上旬に、近くにある東京工業高等専門学校グラウンドをお借りして運動会を行っています。子どもたちは広々としたグラウンドで体を十分に動かし、活動する喜びを味わっています。幼稚園の園庭とは違った



玉入れにヒートアップ!

本格的なグラウンドで、体操・かけっこ・玉入れ・フオークダンス・リレー・綱引きなど、さまざまな競技・遊戯を行います。園では裸足保育を推奨し、日々の保育の中で子どもたちは外に行く際には自発的に裸足になり、土の感触や暖かさ、冷たさも足の裏から感じ取りながら季節を問わず裸足で遊んでいます。子どもたちはかけっこも大好きで、友達と競い合いながら走る姿が日常的に見られ、運動会のための準備ではなく、遊びの中から運動会の競技へと自然につながっていく流れが作られているのが分かります。

楽しい多摩動物園・園外保育

多摩中央幼稚園では年に二回の遠足の他にも、何度か園外へ出かける機会があります。その中の一つに多摩動物園への園外保育があります。園からあまり離れていない場所にあるので、家族と行った経験のある子どもも多いのですが、友達と一緒に行動すること、また梅組だけが行けるといふことがとても嬉しいようで、子どもたちはとても楽しみにしています。



キリンの登場に興味津々

動物園に着くと、長い坂道を上ってアフリカ園まで行きます。途中に動物の足跡が描いてあり、動物の名前を当てるクイズになっているので、子どもたちは「これはライオンだよ!」「人間の足跡に似ているね!何の動物かな?」と楽しみながら登っていきます。

「いきいき子育て」パパと一緒にあそぼう

七月三十日(土)、いきいき子育て支援講座「パパと一緒にあそぼう」を実施しました。父親を対象とした児童学部の神谷明宏先生の講座は、毎年夏の恒例となっており、大変好評を得



パパも真剣! 風作り

ています。昨年に引き続き参加された方もおり、神谷先生との再会を喜ぶお父様もいらつしました。最初に保護者の方へ、幼児期における思い切り身体を動かしたあそびの重要性の講義があり、その後、親子で楽しく遊べる「風」を製作しました。先生の説明を聞きながら、我が子と一緒に必死に風作りをするお父様・お母様方。手際よく作業を進める方、苦戦しながらも一所懸命に作る方などさまざまでした。子どもたちが思い思いに絵や模様を施し、世界に一つだけのオリジナル風の出来上がり! さっそく

盆踊り会

八月五日(金)、夏期保育最終日に盆踊り会が開催されました。当日は夕日を浴びながら保護者の方と一緒に浴衣を着た園児が登壇し、「こんばんは」と笑顔で交わす姿が見られ、いつもとは違う挨拶をすることに喜びを感じているようでした。



やぐらを囲んで

坂を登りきると、「キリンだ!」とさっそく見える動物に歓声をあげ、見学が始まります。最初は動物がいることにただ喜んでいたり子どもたちですが、担任の声掛けを受けて、「シマシマは体と足のシマシマの向きが違うね」「チーターは模様があるんだね」と、さまざまなことに気づきます。園外保育後には見た動物の絵を描いたり、版画にしたり、箱製作をしたりしますが、その時にこの気づきが作品に生かされます。

成長が見られた宿泊保育

八月二日(火)〜三日(水)、年長組が「お泊まり保育」を行いました。午前中は曇り空で雨も降り、天候が心配されましたが、午後三時頃には晴天になり、園児たちは大きな荷物を持って登園してきました。不安そうな表情を浮かべる園児や保護者の方も見られましたが、保育室で友達に会うと園児はすぐに笑顔になりました。



ぐっすりと眠る園児たち

先生の話を聞いた後、隣の郷部児童公園に散歩に行き、遊具や「だるまさんが転んだ」で遊んだり、セミの抜け殻を集めたりして遊びました。園に戻りシャワーで汗

「水遊びはたのしいね」夏の園庭開放日

附属浦安幼稚園では、地域に開かれた幼稚園として子どもが幼稚園で遊ぶ姿やその環境をより良く理解していただくために、幼稚園を開放し、未就園児やお父様、お母様と一緒に遊ぶ「園庭開放日」を実施しています。



ふねをプールに浮かべます

今年夏休み中には三回開催し、内容は夏ならではの水遊びが中心となりました。一回目は、「ふねやジョウロを作って遊ぶ」。発泡スチロールを四角や三角に切った大きさを合わせて作ったふねをプールに浮かべたり、ペトボトルに色とりどりのビニールテープを貼り付け、穴を開けてジョウロを作り、水を掛け合って楽しみました。

二回目は「染め紙で遊ぶ」。色水を作り、障子紙に色水を染み込ませ、広げたときにできた模様は、保護者の方が感激していました。三回目は「魚釣りをしよう」。魚釣りをしよう。色水を作り、障子紙に色水を染み込ませ、広げたときにできた模様は、保護者の方が感激していました。

うたを歌ったり絵本の読み聞かせ、砂場や園庭遊具で遊んだりするほか、テーマを決めて遊ぶという企画も行いました。

朝になり、起床した園児の顔は自信に満ち溢れていました。保護者と離れて宿泊できた事は、園児たちをまた一歩成長させたようでした。

薪に火をつけ、いよいよキャンプファイヤーの始まりです。クイズをしたり、先生の劇を見たりと楽しく過ごしました。その後は花火大会となり、花火が上がる度に歓声が聞こえました。楽しい時間を過ごしているとあつという間に夜になり、パジャマに着替え、ホールにてみんなで眠りました。涙ぐんだり、なかなか寝付けない園児もいましたが、夜の十時過ぎには、眠りについていました。きっと楽しい夢を見ていたのではないのでしょうか。

